

4. 外部評価者（学識経験者）の意見

大田市教育委員会 令和元年度事務に関する評価について

酒井 浩純

11月13日、大田市教育委員会が所管する事務事業について、教育委員会各課から市教育ビジョン基本計画の令和元年度の取り組みとその進捗状況について説明を受けた。

1. 「大田市教育ビジョン」取り組み状況の点検・評価

大田市教育委員会が令和2年度を目標年度として策定されているビジョンについては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき外部評価を実施することされている。今回、ビジョン基本計画施策体系の3つの基本方針と9の重点目標および合計31の施策について、各担当課から取り組み状況等の説明を受けた。その中からいくつかについて所感を述べる。

(1) 諸事業の評価の状況について

市教育委員会ではビジョン関連の事業を今年度49事業（目標項目数）設定されており、事業の必要性が極めて高いA評価を7事業、必要性が高く計画通り実施すべきとするB評価を35事業、事業内容を見直すべきC評価を6事業と仕分けされている。また休・廃止の評価が1事業とされている。C評価とされた事業の中には「難波利三ふるさと文芸賞選定事業」と「地域おこし協力隊等受け入れ事業」があり、これら2事業とも昨年度もC評価とされている。令和元年度に見直しを行ったとの説明があったが、そうであるならば今年度評価結果はC評価とは異なるのではないかと感じた。いずれにしても、事業そのもの中止ではなく実施形態を変え新たな取り組みを今後も継続されるとのことであり、期待したい。

(2) 各事業の取り組み状況について

3つの基本方針の下に31の施策・事業が設定されており、それぞれについて取り組み状況が説明された。教育という行政分野の性格上、その推進はマンパワーが中心となるがどの施策についても鋭意展開されていることが窺え、今後も引き続き御努力頂くことを期待したい。

その中で、就学援助事業、児童生徒支援事業については私の方から踏み込んだ質問をさせてもらい、丁寧な回答・説明を受けたが、大人を中心とした社会の問題が児童生徒の心身のなかに発現している問題という面もあり又、COVID-19拡大の中での新たな課題も心配される中、今後も引き続き積極的な対応をお願いしたい。

2. 終わりに

教育委員会の業務は、学校教育を始め社会教育、文化財保護等多岐にわたっており、市の教育ビジョンはそれらの課題についてそれぞれ令和2年度を目標年度として設定されている。各指標については到達速度の差はあるものの、各課における取り組みが示されており、最終年度となる来年度も引き続き積極的な取り組みを期待する。

なお、昨年の評価会議でお願いした資料の編纂方法について、今年度ご配慮頂いており感謝いたします。

令和元年度 教育委員会の事務に関する点検・評価について

福田文子

昨年度に引き続き、令和元年度の諸事業の点検・評価をさせていただきました。

今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、現場視察することが出来ず残念でしたが、一年間の諸事業の実施状況について、詳細に資料を揃えていただき、それぞれ担当部署の方からの説明を受けましたので、意見をまとめて報告いたします。

1. 生き抜く力を育てる

① 多様で豊かな体験による確かな学力

学力学習状況調査において、全国平均に比べて下回っているものの、差は縮まっており、授業改善について各校で取り組まれている成果と理解し高く評価します。

その反面で、授業改善が教職員の皆さんの負担になっていないかという心配もあります。

地域におられる人材を有効に活用するなど、教職員側の支援体制も検討していただきたいと思います。

② 自立、共生する心

子どもと親の相談員を配置され、不登校になる前に支援出来る体制をとられていることは高く評価します。是非とも配置校を増やし継続を希望します。

特別支援教育に係る相談員の専門性への限界と人材の確保について課題化されていますので、出来るだけすみやかに対策を検討していただきたいと思います。

③ たくましく健やかな体

運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒の割合は全国平均に比べて高いことから、個々の体力・運動能力の向上への指導充実に期待します。

地産地消を積極的に取り入れた学校給食ということなので、「食と健康」の正しい知識と情報提供に努められていると思いますが、併せて、薬物の乱用やがん知識にも取り組んでいただきたいと思います。

2. 「あるもの」を活かす

① 「自然、歴史、伝統・文化」(レガシー)の継承

世界遺産の石見銀山、国立公園の三瓶山、日本遺産の縄文の森(三瓶小豆原埋没林公園)など、多くの豊かなレガシーを直に目にして学べる事が出来る幸せを、子どもの時に感じ取って欲しいと思いますので、そのための、保存管理や基礎資料の整備は拡大しながら継続実施していただくことを望みます。

② ESD（持続可能な社会の担い手を育む教育）

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある児童・生徒の割合は年々増加しており、とても心強く感じました。

公民館の役割を再確認し新体制を構築する必要があるとのことですが、地域の教育の場としての機能は残しつつ充実した見直しをお願いしたいと思います。

③ 教育の魅力化

教育魅力化コーディネーター配置事業の取り組みの中で、「おおだ共育共創ラボ」の実施についてはとても興味深く、質問させていただきましたが、高校生の豊かな発想と行動力で地元企業を動かし、一緒に楽しい大田市の将来を築こうとする魅力ある事業だと感じました。

この経験が、将来「地元に戻ろう」と思わせる事業になればとても素晴らしいことだと思います。

3. 地域を支え、創る

① 子育て（乳幼児期）のとらえなおし

「ふるまい推進事業」は県補助事業が廃止されるとのことですが、内容が親世代をはじめとした大人のふるまい意識を高める事業として取り組まれていたとのことなので、継続して実施していただきたい事業であると思います。

② 学校・家庭・地域の協働

取り組み・成果指標で、地域行事に参加している児童の割合は、年々増加している一方で、生徒は年々減少している状況について、原因を解明した上で、対策を考える必要があると思います。

教育現場だけに留まらず、まちづくりの観点からも、地域ぐるみで教育の重要性を考えるべきではないかと思います。

③ 担い手の育成

キャリア教育、持続可能な地域を担う人づくりの推進、国際的な人材の育成それぞれ熱心に取り組まれていました。職場体験学習が有意義だったと思う生徒の割合が体験した生徒の90%であることから、発達段階に応じた職場体験は有効な事業と高く評価します。

以上、重点目標ごとに特に気になったことを書き上げましたが、総合的には、学力や体力の向上に併せて、地域や企業との関りを深める事業にも熱心に取り組まれていることに感心しました。

これだけ沢山の事業に取り組まれていることを、もっと広く知って欲しいと思いましたし、参加したいとも思いました。

教育現場において日々がんばっておられる皆さんに感謝と敬意を表したいと思います。

松村 敬太

令和元年度の大田市教育委員会が執行した事務に関する点検・評価のため、大田市教育委員会の各担当課から「大田市教育ビジョン」の基本方針に則った施策の事業内容とその自己評価、今後の課題等について説明を受けました。以下、外部評価者のひとりとして、所見を述べさせていただきます。

1. 「大田市教育ビジョン」取り組み状況の点検・評価

(1) 「生き抜く力を育てる」取り組み

多様で豊かな体験による確かな学力を重点目標に掲げられており、土曜チャレンジや放課後学びの場などを行い、全国学力調査を全国平均へ近づけるような取り組みがみられ、大変良い取り組みだと思いました。

しかし、その一方で小中高魅力化推進事業の課題は教職員の業務改善（効率化）が必要なのではと思いました。

(2) 「あるもの」を生かす取り組み

大田市は、三瓶山や琴が浜など豊かな自然に多く囲まれ、世界遺産である石見銀山を有する伝統のある地域です。そのためにも次世代を担う子供たちにどう大田市を伝え行くか工夫された取り組みがあると感じました。

また「ダイコウラボ」のような活動は高校生にとってすごく刺激があり、自己啓発を促す良い活動だと感じました。

(3) 「地域を支え、創る」取り組み

子供を持つ保護者の立場として、登下校時のボランティアの方には頭の下がる思いですが、どういう方がどのようなボランティアに携わっていただいているのか、実態が見えない、見えにくいことも多いように感じます。それを見えるようにしていき、ボランティアに積極的に尽力していただいている方々や団体に対して、その功労を労うような場やしくみをもっとあって良いと思います。

2. 最後に

今回のヒヤリングを通じ、多くの事業が目標達成に向かって取り組みを進められていることを確認しました。

今回初めてこの評価をさせていただくことになったのですが、もっと具体的にどんな活動をしてきたのかを映像や写真等で見せていただきたいと感じました。それはすべての取り組みでなくても良いですし、文字でまとめた資料よりわかりやすく資料作りも効率が良いのでは？と感じ、評価といっても良い・悪いだけではなく、具体的に良いところ、

悪いところを評価していく必要があるのでは？と感じました。

また今後の課題まで抽出していただいています、それに対する対策案などもあれば記入して行けばさらにどんな方向へ進みたいのか、わかりやすいのではないかな？と思いました。